

2021.9.22 小川

一茶道ガイド参考資料 I (9/11 オンライン Mtg「昔の疫病対策は神頼み」神仏分離 関連情報から)

馬橋の萬満寺に、松戸市小金にあった普化宗「一月寺(いちげつじ)」の遺石がある。神仏分離令により廃寺となりました。(現在は日蓮正宗の寺院となっていて、「いちがつじ」と読みます) 下記松戸市HPのURLに記載あり。

<https://www.city.matsudo.chiba.jp/miryoku/kankoumiryokubunka/odekakemap/odekakemap/bunkazai-map/shishitei/si16.html>

ご存じの通り、この一月寺は普化宗禁止により廃寺となったものです。↓HP内容

### ● 一月寺遺石

更新日：2018年4月5日

かつて小金にあった金龍山一月寺(きんりゅうざんいちげつじ)は、鎌倉時代の初期、正嘉(しょうか)2年(1258年)金先禅師(きんさんぜんじ)によって創建されたといわれています。一月寺が普化宗(ふけしゅう)寺院としてその基礎を固めたのは江戸時代に入ってからで、徳川幕府の保護のもとに発展し、青梅の鈴法寺(れいほうじ)、京都の明暗寺(めいあんじ)に並ぶ普化宗金先派本山として、全国に多くの末寺(まつじ)を持つにいたります。しかし、明治4年(1871年)の太政官布告(だいじょうかんふこく)によって普化宗が廃止されると、それと同時に一月寺も廃寺となります。

「開山塔(かいざんとう)」は、享保(きょうほう)16年(1731年)に造立(ぞうりゅう)されたものです。もとは一月寺の境内に建てられていたもので、その下には箱に納められた大乘妙典(だいじょうみょうてん)が埋められていたということです。自然石の石塔には仏を讃える意味を持つ詞(ことば)である「偈(げ)」が、台石には一月寺の由来文が刻まれています。

「遺墨墳(いぼくふん)」の銘が刻まれた遺石は、江戸時代後半の文政(ぶんせい)・天保(てんぽう)年間に起きた「仙石騒動(せんごくそうどう)」に縁のある石碑で、天保14年(1843年)に建てられたものです。



①遺墨墳



②開山塔